平成26年度　第1回ほたる多職種研修会アンケート結果

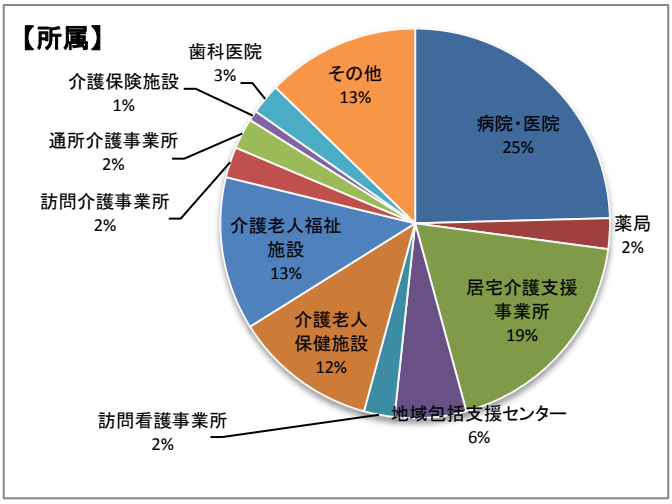
平成26年6月15日（日）14:00～

テーマ「穏やかな最期を迎えるために知っておきたいこと」　　講師 ： 長尾クリニック　 長尾和宏先生

参加者：133名　 アンケート協力者：118名　　回収率：89%

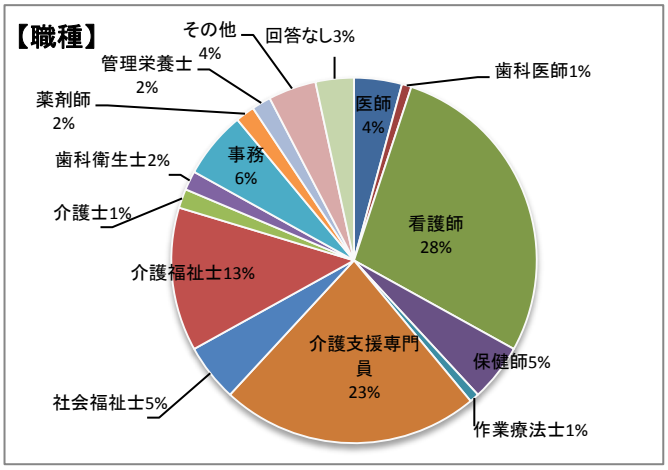
所属

病院・医院	29
薬局	3
居宅介護支援事業所	22
地域包括支援センター	7
訪問看護事業所	3
介護老人保健施設	14
介護老人福祉施設	15
訪問介護事業所	3
通所介護事業所	3
介護保険施設	1
歯科医院	3
その他	15
合計	118



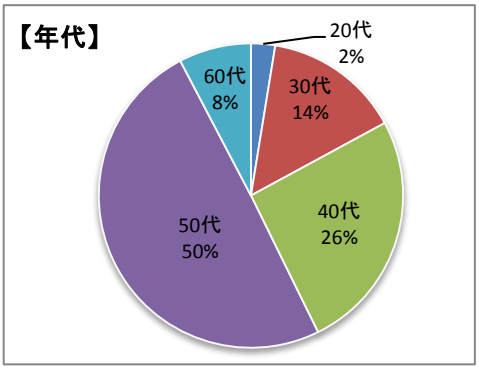
職種

医師	5
歯科医師	1
看護師	33
保健師	6
作業療法士	1
介護支援専門員	27
社会福祉士	6
介護福祉士	15
介護士	2
歯科衛生士	2
事務	7
薬剤師	2
管理栄養士	2
その他	5
回答なし	4
合計	118



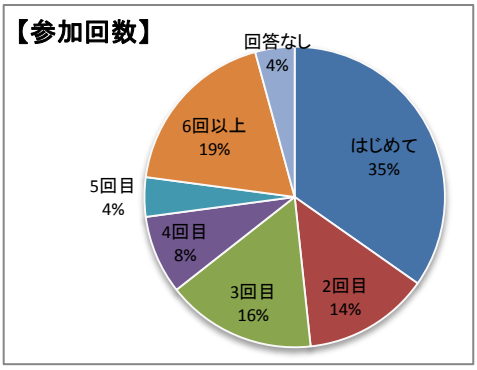
年代

20代	3
30代	17
40代	30
50代	58
60代	9
回答なし	1
合計	118



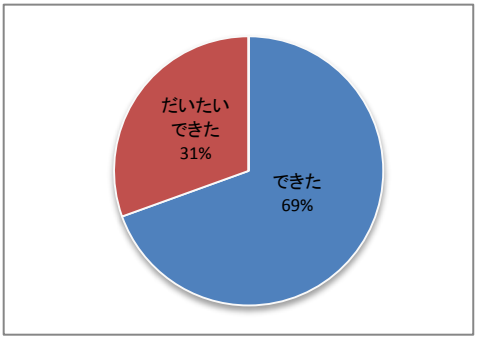
ほたる多職種研修会への参加回数

はじめて	41
2回目	16
3回目	19
4回目	10
5回目	5
6回以上	22
回答なし	5
合計	118



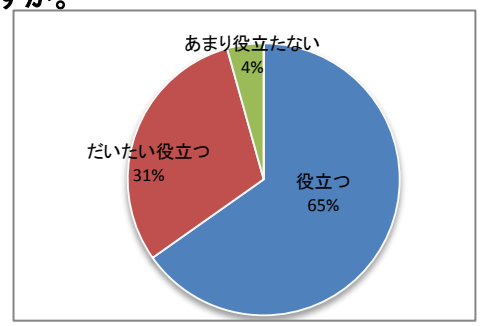
1、研修会の内容は理解できましたか。

できた	82
だいたいできた	36
あまりできなかった	0
できなかった	0
回答なし	0
合計	118



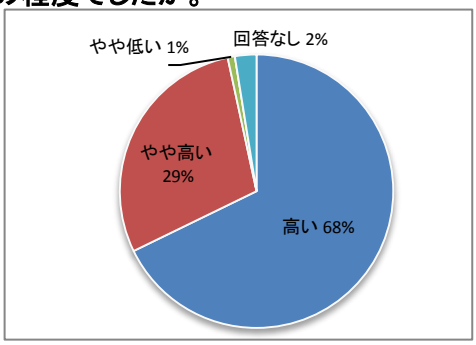
2、研修会で学んだことは実践の中で役立ちますか。

役立つ	75
だいたい役立つ	35
あまり役立たない	5
役立たない	0
回答なし	3
合計	118



3－1、研修会に参加して全体的な満足度はどの程度でしたか。

高い	80
やや高い	34
やや低い	1
低い	0
回答なし	3
合計	118



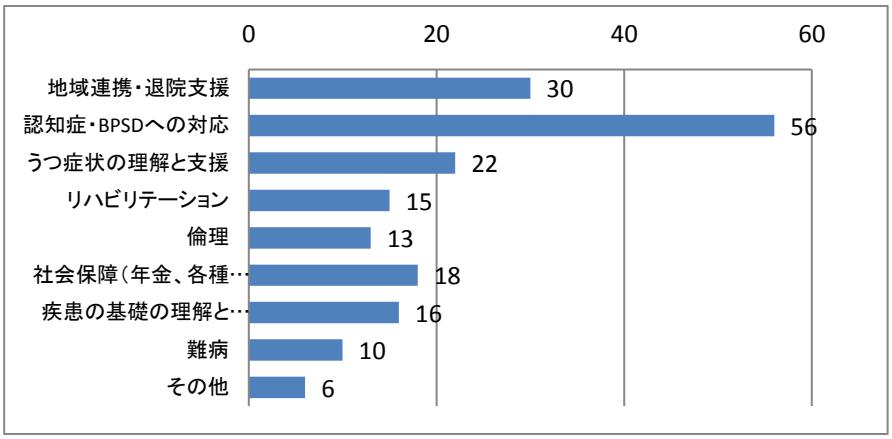
3－2、その理由をお書きください。

- 明らかでないor現実的にどうすれば良いのかという部分が残ったように思います。
- 色々な疑問に対する答えを聞けたように思う。
- 市民にもその通り聴いて欲しい。今日の話は言いたいことを言ってもらった感があります。医療者側も市民です。温度差をなくしたい。
- 死について考えることが出来た。日本死の学会に参加していた頃を思い出した。同意する分が大きい。
- 地域包括ケアをよくわかっている医師も少ないこともあり、長尾先生のような医師が増えてほしいと願います。
- 上から目線ではなく、「まじくる」で本音の議論をぶつけ合うことが重要と感じた。
- 平穏死という考えにとても興味があったので満足でいっぱいです。他人事ではないということを実感し、死について真剣に考えることが生きることにつながると思います。
- 患者様のその人らしい生活を考えて支援していく大切さを改めて再認識しました。
- 以前からお話を聞きたかった先生でしたので非常に満足です。
- 終末期を在宅で迎えるのは難しいと感じていたのでいろんな情報を知ることができ参考になりました。
- 常々死に方の選択が、実は選べていない方が多いと感じていたので。
- 話の内容が根拠に基づいての話をしている。正直に話をしているところなど間違って覚えていた事をここで説明していただき、ゆっくりした気持ちになった。死ということを改めて考えさせられました。
- 参考になることがとても多いです。日々の業務に活かされています。
- 長年ターミナルにも関わり、現在在宅のお手伝いをしているが、方向性がよくわかりました。在宅での良い死についてもっと考えたいです。
- 内容のレベルが高い。
- 在宅での終末期の迎え方について。
- 本日学んだことを医師に伝えることはできない。しかし自分の最期をどう終えるか、一人一人が人生をどう迎えるかという点で私たちが今出来る事を再確認させていただいた。
- 分かりやすく理解できた。
- 自分の最期について改めて考える機会となった。
- 医療知識のない自分でも医療の側からみた地域包括ケアを理解できた。
- 死と生について自身でもっと考える機会となると思うため。
- これから看取りを行っていく予定なのですが、参考にしていけそうです。
- 今後の課題と思われる。

・話が分かりやすい。自分の意志がはっきりしている。
・生き方や死への考え方を改めて考える機会になってよかった。
・平穏死を納得できたし、自分が考えていた死だから。
・興味があり、事前に本を読んで参加しました。
・施設での看取りに対する考えを改めて考え直す良い機会になりました。
・具体的に今まさに在宅医療に取り組んでおられる。新鮮なお話を伺えたので。
・日頃施設で看取りをすすめていますが、そのプラス面についてご家族などに話をする際の参考になった。
・終末期に大切な事を知ることができた。施設でも看取りを行う方向性があり、勉強になった。
・話が分かりやすくて良かったです。
・現在家族に(終末期)いることで、今日の研修は考えられる内容となっていました。今何をすべきか考えますが、現実として家族みんなが同じ考えになるとは考え難いです。自分が現在、医療→在宅の仕事についたことで、この研修が意義のあるものとなりました。貴重な研修となりました。
・家族ではなく、本人の意向が最優先できる関わりを持って仕事をしていきたいと感じました。
・実践している事の裏付けになりました。
・穏やかな最期を迎えるために、どのようにしたら良いかをたくさん学ぶことができた。

4、今後取り上げてほしいテーマについて。(複数回答可)

地域連携・退院支援	30
認知症・BPSDへの対応	56
うつ症状の理解と支援	22
リハビリテーション	15
倫理	13
社会保障(年金、各種届出)	18
疾患の基礎の理解と観察のポイント	16
難病	10
その他	6



その他…
・各施設の自慢大会、問題点などの報告会。何をやっているのか知りたい。
・今日のようなテーマの第2段
・排泄障害
・多職種共同ネットワーク化に向けてのコツ
・看取りの実施例
・マネジメント

5、その他、研修内容に関する意見や感想など。
・地域連携とうたっているわりに…胃ろうをしなければおいてくれない施設、看取りをしていませんと看取りのため病院へ紹介する施設、開業医。地域医療がしっかりしてくれなければ、鶴岡地区の平穏死はありえません。胃ろうのデメリット、本当に必要かのインフォームドコンセントを、施設の医師、開業医が家人ともっときちんと話し合ってほしい。それ以外でも責任感やかかりつけ医の意識がない。
・盛り沢山の内容でしたが、先生のわかりやすいお話で理解度もあがったと思います。素晴らしい講演ありがとうございました。
・実践で役立てるには、市民も医師も学ぶことが必要だと思った。
・納得死について、認知症ケア学会、精神看護学会でも話している。先生のお話は自分が行おうとしている事の後押しとなり、心強かった。ありがとうございます。
・家族関係や社会の変化に伴い、家族の力が希薄化しているなかで、在宅医療を選択する家族は少なくなっています。家族の意向が優先されて医療が行われていることが多くなっているが、その中でも、患者本人がどうありたいか、その人らしい生活とは何かと医療者側も向き合っていくことが重要であると感じました。
・死に方、生き方について考えさせられました。介護⇔快互が印象に残った。
・長尾先生の柔軟な考え方が大変勉強になりました。多職種連携「まじくる」という話も！鶴岡の現在の活動と同じ方向性だと思いました。
・とてもわかりやすく聞くことができました。ありがとうございました。
・最期を枯れるように閉じる経験を何度もしております。先生のお話を拝聴して「うん、うん」と納得できました。間違っていないと実感しました。
・先生の考え方に賛同できました。死をテーマにするととても話しにくい雰囲気になりますが、自分も含めて話し合いが必要だと強く感じました。素晴らしい先生の講演を聞く機会を作っていただきありがとうございました。

- 自宅で最期を迎えたい、迎えさせたいと本人・家族の思いがあるが、在宅医療が鶴岡では医師との連携がスムーズでないと思います。今後はもっと医療と介護連携、地域包括ケアシステム作りが必要だと思います。（在宅看取りに不安がある）
- 今日は本当に来てよかった。今までで一番満足しています。また機会があれば長尾先生のお話をもっと聞きたいです。最後のビデオ、涙があふれ止まりませんでした。ありがとうございました。
- 良いケアには良いドクターの存在が必須です。地域のためにも長尾先生のようなドクターがもっともっと増えることを望みます。
- 枯れるように死ぬという考えが自分の中にありませんでした。
- とても勉強になりました。休日でも参加した甲斐はありましたが、少々時間延長されて困りました。聞きたいけれど帰らなければと葛藤しました。地域包括ケアについては住民の方にももっとお知らせしていかないといけないと思います。関係者だけが対象でなく、全体にキャンペーンしてほしい。
- 著名な方のお話を拝聴するよい機会となっています。このような研修会を企画していただき、参加できることは大変ありがたく思います。これからもよろしくお願いします。
- スライドの資料があったらよかったと思いました。
- スライドをまじえてとても楽しく聞けた。
- 患者さんや利用者さんの言葉や声、思いを傾聴し寄り添える看護やケアを提供できるようにしたいと思います。DVD等の媒体もあり、長尾先生の話も楽しく勉強になりました。聞けば聞くほど難しい問題が多いとも感じました。
- 研修に参加させていただきありがとうございました。死への考え方や点滴に対して、医療に対して、考えさせられる事が多くありました。とてもよかったと思います。次回もぜひ参加させていただきたいです。
- 良かったです。石飛先生の平穏死のすすめは読んでいましたが、長尾先生のお考えをこのような機会で聞くことができ、自分の中でももっと学び、職場でも考える機会を作っていきたいと思いました。
- 長年看護師として病院勤務してきました。2年前老健を設立し、看取りについて検討会を開き、勉強会に参加し四苦八苦している段階です。今日は、うん、うんと何度もうなずきながら勉強させていただきました。
- 介護福祉施設で看取り介護がはじまりましたが、病院から帰ってくる方は病院で何もできないと戻ってきます。
- 枯れることは楽なこと。待つこと。終末期を感じること。が心に残っています。日々の介護でこの方にどのようなことができるのだろか…と死を前にして悩むことが多くあります。思い残すことがないようなケアができるようになりたいと思いました。
- すぐに役立てていくことは難しい問題だが、病院、施設、また会社、個人で考えることだと思う。今後在宅が増えれば、より必要な知識だった。ありがとうございました。
- 生き様＝死に様だと思っています（不慮の事故による死は別として）。生き方は選択できるのに、死に方（医療の介在（安楽死は含まない））を選択できない現状は変わってほしいと思います。元気なうちから家族や周囲の人と共によく話し合って納得することが大切だと思いました。
- 動画の一例にあった、救急車が来るとか脅しながら、顔をペンペン叩きながら食事介助することは家族から頼まれても施設ではできない。入所やショート利用したら老衰の域で数日で亡くなってしまうと思う。
- いいお話でしたが、やはり誤解されて受け止められることが心配です。MSWの方の質問があって、誤解を避ける助けになったと思います。
- グループホームに勤務しています。現在生活の延長線上に看取りをお願いしたいとご家族からお話がありました。その方は法人の特養に申し込みされており、待機一番を断ってしまったのです。そうしたところ施設長より、ご家族を説得して入所する方向で再度話し合いしなさいと上司命令がありました。グループホームで看取りなんかできないでしょう、の施設長の言葉に絶句してしまいました。
- すばらしい講演でした。参加できたこと、とても嬉しく思います。また長尾先生のお話を聴くことができる機会を作っていただけたら良いと強く思っています。
- グループホームの職員研修にぜひおいでいただきたいと思いました。
- 具体的な例にたくさんふれながらお話をして頂いたため、日頃介護にかかわらない職種にとっても聞きやすい内容であった。上から目線でない考えの発想は、自分の仕事にも生かしていきたいと思いました。このたびは貴重なご講演の機会を頂けましたことに感謝申し上げます。
- 尊厳死・平穏死・リビングウィルなど自分の中で考える事が大切だと思いました。そして、長男・長女とも充分話し合う事をしたいと思いました。来週の講話でも参加者に今日の話を伝えていきたいです。